津田城遺跡について調べる

　津田城は、城主津田守が領地を国見することができる高地にと居城を構えたことにより、その名を国見城とも呼ばれ、乱世に織田信長や豊臣秀吉の野望の渦の中で、焼討ちされた短命の悲運の城と言われています。
　また、狭義の津田城は国見山山頂にある国見山城を指しますが、地元ではこれに加え、西麓の丘陵上に立地する本丸山城、及び古城の三城（ふるじょう）を総称して津田城と呼ばれています。

1、津田城、悲運の焼亡　　津田城の歴史と歴史的背景

『図説・北河内の歴史』　大阪府の歴史シリーズ
　郷土出版社：発行　　1996 年　　138 p ～139 p 参照
２ページに渡って津田城の概略、津田城を築いた津田氏について、また昭和 47 年に行われた津田城に対する調査について、本丸山城の発掘についても記載されている。特に国見山城、本丸山城跡では、焼土層が見つかった報告が記載されていて、城が焼き払われたとされる記録と符号することが書かれている。津田城関連施設位置図、上空からみた国見山山頂の写真、本丸地区の発掘風景、軒丸・軒平瓦の写真も掲載されている。

『河内今昔事典』
　富田　寅一：著　　叢文社：発行　　2001 年　　62 p ～93 p 参照
第 30 話として、国見山の展望　＜枚方八景⑤＞として記載されていて、津田城の歴史や発掘調査により、その跡地においてくるわ跡、居館跡、石垣、生活用具等が出土し中世の山城の全容が判明しつつあることが記載されている。

『ひらかた散歩　シリーズ 1』
　上田　義三：著　　枚方新聞社：発行　　1964 年　　76 p ～80 p 参照
「津田の国見山」として、紹介されている。津田城の歴史、領主である津田一族の興亡について随筆調に記載されている。

『河内・歴史の古里』
　森迫　博美：著　　河内新聞社：発行　　1991 年　　33 p ～36 p 参照

「幻の津田城」として紹介があり、その他に城の歴史や津田一族の歴史について記載されている。津田城は津田周防守正信が天文（1532～1555）・天正（1573～1593）の頃に築いた山城であること、三代目周防守正明が近畿河内の主領である三好長慶の後ろ盾を得て津田の名門である中原一族を追放したこと、五代目正時の時代に織田信長に攻められ津田城は焼け落ちたことが記されている。この時に正時は逃げのびたが、天正 10 年の本能寺の変ののち、織田信長に焼け打ちへの恨みもあって明智軍に味方し、山崎の決戦へ参加したが、豊臣秀吉軍に敗れ敗軍となり滅亡することが記載されている。

『枚方市史　第 10 巻』

枚方市：編　　枚方市：発行　　1976 年　　156 p ～157 p 参照

第 10 巻は史料 V として刊行され、157 p に「名所旧蹟」として津田城址の記載がある。

『津田史』

片山　長三：著　　津田小学校内創立八十周年記念事業：発行　245 p ～247 p 参照

12、国見山城址

「尊光寺所蔵当郷旧跡名勝誌」「尊光寺所蔵国見獄城主歴代」を引用文献として解説している。五代当主津田正時の代に天正 3 年 4 月 17 日に織田信長の河内平定の際に焼き払われたと記載されている。

13、本丸山城址

天正三年織田信長の軍勢によって国見山の城を焼き払われた津田正時は再び津田に帰ってこの本丸山に小砦を築き、館を作って住んだ。のち明智光秀に誘われ山崎の合戦に敗れ、豊臣秀吉の軍によって再び津田の地は蹂躙され、本丸山はもちろんのこと、周辺の諸砦までことごとく焼き払われたと記載されている。

2、 城主津田氏について

『郷土枚方の歴史（新版）』

枚方市史編纂委員会：編　　枚方市：発行　　1997 年　　108 p ～110 p 参照

第 4 章　近世の枚方において、五代目正時が明智光秀に味方し山崎の合戦で敗北し、丹波国へ逃れ、播磨国をまわって自分たちの村へ帰ったことが記載されている。

『枚方市史　別巻』

枚方市：編　　枚方市：発行　　1995 年　　185 p 、211 p 参照

『津田史』

片山　長三：著　　津田小学校内創立八十周年記念事業：発行　　48ｐ～54ｐ

尊光寺「当郷旧跡名勝誌」（天和２年）1682 年を引用文献として解説。

また、「藤坂松村健三郎氏所蔵記録」および「山本甚助氏所蔵三之宮旧記」から解説を施している。

『津田史』

片山　長三：著　　津田小学校内創立八十周年記念事業：発行　249ｐ参照

14、古城（ふるじょう）津田周防守正信の墓

津田周防守正信は、津田氏の第一代でその人の墓の記載がある。山本甚助氏所有墓地に十数個の自然石を集めた積石塚で津田城主の墓としては原始的な感をもつ荒石の集積であることが記載されている。

『河内今昔事典』

富田　寅一：著　　叢文社：発行　　2001 年　260ｐ～263ｐ参照

「津田町史」（注　津田史　片山長三著）によれば、楠木正成の後裔と名乗る者が当地を領し、津田周防正信と改性、津田城を築き、当地域を支配した。その後、二代目正忠、三代目正明、四代目正氏、五代目正時の天正３年（1575）、織田信長に攻められて落城、領地も没収されたと記録されている。

ところが、大正初期発行の「大阪府全誌」や「北河内史話」（平尾兵吾）等には、町史と異なった津田氏の記録が残っていると記載がある。

『城郭由緒の形成と山論』「津田城主津田氏」の虚像と北河内戦国史の実態

馬部　隆弘：著　　城館史料学会　　2004 年

中世の津田地域を調べる場合、由緒書のみから立論されている通説を洗い直す必要があると考え、近年の研究成果もふまえて津田の地域構造を改めて分析し、中世津田地域に関する由緒書を網羅的に整理し、作成の目的とその背景にある社会状況を明らかにした論文である。

3、津田城跡の発掘

『枚方風土記』

枚方市：著　　枚方市企画部企画調査室：発行　　1987 年　162ｐ～163ｐ参照

津田城跡発掘の記載と出土品の記載と津田一族、周辺の地図の掲載がある。

『まんだ　23 号』　北河内とその周辺の地域文化誌

まんだ編集部：発行　　1984 年　　35 p ～38 p 参照

津田城遺跡（本丸山地区）近世の火葬骨の入った骨壺を十基確認したと記載。
その他出土遺物の記載あり。
津田城遺跡（古城地区）弥生遺跡遺構平面図の記載あり。

『まんだ　24 号』　北河内とその周辺の地域文化誌
まんだ編集部：発行　　1985 年　　巻頭参照
「津田城跡の発掘」として巻頭に多数写真掲載。
「津田氏の盛衰」として「国見城主系図」（尊光寺蔵）による津田氏の解説が掲載されている。

『津田城遺跡　発掘調査概要報告』
枚方市文化財研究調査会、大阪府住宅供給公社：発行　　1992 年
昭和 47 年 2 月に枚方市教育委員会より、大阪府住宅供給公社へ予備調査が必要である旨の回答がなされ、昭和 47 年 11 月に、大阪府住宅供給公社より枚方市教育委員会へ埋蔵文化財の調査の依頼がなされた。12 月に枚方市文化財調査団が結成され調査が実施された調査報告書となる。

『津田城遺跡』　大阪府文化財調査研究センター調査報告書　第 71 集
大阪府文化財調査研究センター：編・発行　　2002 年
第二京阪道路とそれに併行して建設される一般国道 1 号バイパス（大阪北道路）の建設に先立って行われたと記載され、丘陵頂部およびその斜面部分において檀状に造り出された棚田を検出したとの記載あり。
これらの調査により、中世末期における山城の築城を端緒とした、調査の進展をあとづけることが可能となったとの記載がある。

＜お問い合わせ先＞
枚方市立　津田図書館
〒　573-0121　枚方市津田北町 2 丁目 25-3
MAIL：　tsuda@hira-manatsuna-library.jp
TEL　：　050-7102-3123
FAX　：　072-859-6200

「パスファインダー」とは、「道（path）」を「見つける人（finder）」という意味で、知りたいことを調べるのにどのように資料を探したらよいかを示す手引きのことです。